

二〇二〇年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程(午前)

国語 (六〇分 一〇〇点)

受験上の注意

- 一 この問題冊子は1ページから22ページまであります。
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
 - 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
 - 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
 - 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を開いたまま裏返して置きなさい。
- 〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉

受験番号

--

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。また、⑤～⑧の――線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 効率のよい計画。
- ② 今日の実験は有益だった。
- ③ 山の中腹まで登る。
- ④ 郷里に帰る。
- ⑤ 学芸会で主役をつとめる。
- ⑥ 栄養をほきゆうする。
- ⑦ がっしょうコンクール。
- ⑧ せんもん家の意見。

問二 次の①～⑤の に当てはまる言葉を後のア～カから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じものを二度選んではいけません。

- ① もう四月だ。 寒い日が続いている。
- ② その方法はやめるべきだ。 むだが多すぎるからだ。
- ③ 明日の天気は雨のようです。 雨具を忘れないようにしましょう。
- ④ 会うのはひさしぶりですね。 お父さんはお元気ですか。
- ⑤ この行事は楽しく、 有意義なものです。

ア	なぜなら	イ	だから	ウ	しかも
エ	ところで	オ	けれども	カ	ただし

問三 信子さんと愛子さんは、自由研究で、ある工場に見学に行き、社長さんにインタビューをして、それを後でまとめてクラスで発表することになりました。次の会話は、インタビューするときの注意点について、二人で話し合っている場面です。会話文の【A】～【F】に当てはまる言葉を後のア～カから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じものを二度選んではいけません。

信子：社長さんとの待ち合わせ時間は朝十時だけど、その時間より少し【A】現地に着くようにしよう。

愛子：うん、遅刻^ちなんて絶対にできないものね。

信子：それから、質問するときの言葉づかいは、【B】はつきりとする。

愛子：わかってる。いや、わかりました。しつかり準備して、【C】も作っているんだから、だいじょうぶだよ。

信子：でも、準備した質問だけじゃなくて、【D】を体験して、その場で考えて質問をするっていうのも大事だよ。

愛子：そうだよ。せつかく工場を見せてもらうんだから、その場でいろいろ聞きたいことも出てくるはずだしね。それに、後でクラスで発表しなきゃいけないんだから、できるだけたくさんのことを聞いて、しつかり書きとめておかないと
いけないよね。

信子：でも、そのときは【E】は簡単にして、【F】を見ながら聞くことを意識しないと、失礼になるよ。

愛子：それは人と話すときの基本、だいじょうぶだよ。ああ、大変そうだけど、ますます楽しみになってきた。

ア	相手	イ	聞き取りメモ	ウ	ていねいに
エ	現場	オ	質問メモ	カ	早めに

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ヒトはどのような生き物だろうか。ほかの動物と何が決定的に違うだろうか。

この問いには明確な正解があるわけではない。ただ、大きな脳、直立二足歩行、言語と言語能力、道具の製作と使用、火の使用、文化の六点が挙げられることが多い。

① 私の考えた答えは、「イヌを飼う」ということだ。実は、世界中で、イヌのいない文化や社会はまれなのだ。ヒトのいるところであれば、イヌはほぼどこでもいる。北極付近ではヒトのためにソリを引いているし、かつて日本の観測隊が南極に樺太犬を連れて行ったこともある。そう言えば、地上の動物で宇宙に初めて行ったのは、ライカ犬だった。

ほかの家畜に比べ、イヌの場合には、ヒトとの関係がとりわけ緊密である。家畜のうち、もともと家畜化の古かったのはイヌである。イヌは、おそらく一万五千年前からヒトのそばにいて、行動を共にしていた。なぜそう推測されるかと言えば、そのころの遺跡から、ヒトと一緒に埋葬されたイヌの遺骸が見つかるからだ。洞窟壁画にも、一万年前ぐらいからイヌが片隅に登場し始める。ユーラシア大陸からアメリカ大陸に流入していった人々も、おそらくお伴にイヌを従えていた。アメリカの在来種のイヌのDNAを調べた結果は、② そうだということを示している。そしていまも、③ 狼犬、牧羊犬や牧羊犬、警察犬、盲導犬や聴導犬、介護犬、災害救助犬、番犬として、そしてもちろんペットとしても多用されている。

③ イヌはなぜ人間の相棒になれたのだろうか。それは第一には彼らの習性にある。イヌは群れで行動し、その群れのリーダーを信頼し、その要求に忠実に応えるという性質をもつ。ヒトとイヌが絆を結べるのは、こうした社会性があるからだ。イヌは、ヒトの社会や家族のなかに入ることによって、自分もその一員として、飼い主をリーダーとみなすのである。

もうひとつは、ヒトとの感情の交換が可能だということがある。ほかの動物に比べ、イヌは感情が豊かで、それは鳴き方やしぐさなどに現れる。これによって、私たちはイヌの心の状態を的確に把握できる。イヌの認知や行動を進化の点から研究しているア

ダム・ミクロシ氏によると、イヌには、オオカミと違って、さまざまな文脈に応じた吠え方があり、それらの多くをヒトに対して用い、ヒトの側もそれを聞いてイヌの心の状態がわかるという。

そのうえ、最近の研究でイヌもヒトの感情を読めることがわかった。飼い主のあくびがイヌに伝染することも報告されている。あくびはヒトの間では伝染するが、ヒトと動物の間でそうした伝染が報告されているのは、いまのところチンパンジーと犬だけである。

さらに、イヌは、ヒトの指差し、つまり何を指示されているかもわかる。実のところ、指差しがわかる動物はほとんどいないのだ。しかも、イヌは、長い鼻先を向けてヒトに方向を指示することもできる。そしてヒトの目の向きにも敏感で、目の向きからヒトが何に注意を向けているかもわかる。イヌは、ことばによる簡単な命令を聞き分けることはよく知られており、訓練しだいでは、かなりの数の単語を教えこむことも可能だ。こうした能力がフルに生かされて、イヌは、ヒトにとって、あふれんばかりの信頼を寄せてくれる忠実な下僕となった。

では、どのようにしてオオカミからイヌができたのだろうか。これについては、ロシアのベリヤーエフが行った研究が示唆を与えてくれる。彼は、一九五七年から二十六年間に渡って、野生のホツキョクギツネを家畜化するという実験を行った。人間を怖がらないおとなしい性質の個体どうしを掛け合わせ、そこで生まれた個体のなかから、さらにその性質が強い個体どうしを掛け合わせるということをくり返していったのだ。そしてできあがったのは、ふるまいがイヌと見紛うばかりのホツキョクギツネだった。ベリヤーエフは、野生のラット、カワウソやミンクについても同じことを行なった。できあがったのは、人なつこいラット、人に寄ってくるカワウソ、愛想のよいミンクだった。

オオカミとイヌは、最近の分子遺伝学的研究から約十三万五千年前に分岐したと推定されているが、おそらくその時代以降、イヌの祖先は、ヒトの野営地で食べ残したものにあずかれるなどのことがあって、ヒトの近くにいたことが多くなり、ヒトを怖がらないイヌができあがったのだろう。結果的に、ヒトを怖がらない性質の個体だけが生き残ったのだ。このようなプロセスを

④「自己家畜化」と呼ぶ。

このプロセスを経るうちに、イヌは、オオカミに比べ、耳の先が垂れ、毛の色が抜けたりまだらになったりし、尾が短くなって上に巻くといった形態の変化が起こった。それとともに、ヒトに自分から近づき、ヒトに尾をふり、ヒトに甘え、ヒト用の吠え方をするなど、性質も大きく変化した。こうした自己家畜化が下地としてあって、一万五千年前以降、ヒトは、イヌをその体型や性質や能力の点からさらに人為的に交配し、つまり本来の意味での人為的家畜化をし、自分たちの望むようなタイプのイヌに仕上げていった。

⑤ヒトには、生き物の行動や性質に対する飽くなき好奇心がある。過去数百万年にわたって、獲物の動物を、そして採集植物を

見つけてきたのだ。動植物に対する確な観察眼と強い好奇心をもつことによって、動物の行動や習性を読むことが、そして植物の自生地や育ち方などの性質を知ることができるようになった。そして場合によっては愛情を注ぐこともできるようになった。

一万年と少し前、狩猟採集中心の生活を根底から変える出来事が起こった。

⑥農耕や牧畜の発明である。自然にあるものを採

ったり狩ったりするのでなく、自らの手でそれらを育てるようになったのだ。これは画期的なことだった。この発明によって、ヒトは、遊動する生活をやめて、ひとところに定住することが可能になった。これこそが、文明誕生への最初の一步だった。

一万年前というのは、ちょうど氷河期が終わったところに相当する。すなわち、農耕と牧畜は、寒冷だった気候が温暖な気候へと推移して安定化したことで可能になった営みであった。

⑦狩猟採集で培ってきた動物や植物についての知識やスキルは、この時点で、農耕と牧畜に活かされることになった。栽培作物も家畜も、生育・成長には数ヶ月や数年といった時間がかかる。作物であ

れば、野生種の植物を自分たちの手で植えて育て、時期を待ってその実や種や根茎を収穫することは、予測や洞察、周到な計画性といった能力があつてはじめて可能になったのだ。

いま私たちが口に入っている作物は、長い品種改良の歴史によって生み出された作品である。

⑧ いま私たちが「自然」と思っている動植物の大部分は、自然本来のものではない。私たちのまわりにあるのは、野鳥などの野

生動物を除けば、家畜化された動物や栽培化された植物がほとんどである。それらは、「自然」の動植物と姿形や性質が似てはい
るが、ヒトのために作られたという点で、「自然」のものとは本質的に違っている。つまり、狩猟採集から農耕牧畜への移行は、
動植物を生活の糧にするという点では同じであるように見えながら、実は、「自然」から「人為」への決定的な移行だったのだ。

このように、ヒトは、自分たちの力で新たな種類の生物を生み出しているという点でも、この地上の生き物のなかでは特異な存
在である。いま、このようなヒトの性質は、生命科学の知識とその技術を用いて、新たな局面も開きつつある。最先端の技術は、
遺伝子をさまざまに改変することで、ヒトに役立つ新たな生物をも生み出し始めている。

(鈴木 光太郎 『ヒトの心はどう進化したのか』より)

問一 ——— 線部①「私の考えた答えは、『イヌを飼う』ということだ」とありますが、筆者の考える『イヌを飼う』というこ

と」は、どんな問いに対する答えですか。それを説明した次の文の()に当てはまる内容を、本文中の言葉を使って十五
字程度で答えなさい。

(十五字程度) は何かという問いに対する答え。

問二——線部②「そうだということ」が指している内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア イヌは、ヒトとの関係が緊密であるということ。

イ イヌは、家畜のうちもつとも家畜化が古かったということ。

ウ イヌは、おそらく一万五千年前からヒトのそばにいたこと。

エ イヌは、一万年前ぐらいから洞窟壁画に描かれ始めたということ。

オ イヌは、ユーラシア大陸からヒトに連れられて移動したということ。

問三——線部③「イヌはなぜ人間の相棒になれたのだろうか」とありますが、その理由として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イヌは、群れで行動し、群れのリーダーの要求に忠実であるから。

イ イヌは、ヒトの目を見て、ヒトが何を考えているのかわかるから。

ウ イヌは、ヒトの感情を読むことができる能力を持っているから。

エ イヌは、ヒトに指差されると何を指示されているかわかるから。

オ イヌは、言葉による簡単な命令を聞き分けることができるから。

問四 ——— 線部④ 「自己家畜化」の内容として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

アイヌは、短くなった尾をヒトにふるようになった。

イイヌは、自分からヒトに近づき甘えるようになった。

ウイヌは、ヒトの近くで過ごし、耳の先が垂れてきた。

エイヌは、ヒトに都合のよいように交配された。

オイヌは、オオカミのような吠え方をしなくなった。

問五 ——— 線部⑤ 「ヒトには、生き物の行動や性質に対する飽くなき好奇心がある」とありますが、これは、ヒトがどのような生活をしている中で培つちかわれたのですか。本文中から九字の言葉をぬき出して答えなさい。

問六 ——— 線部⑥ 「農耕や牧畜の発明」とありますが、その結果、ヒトはどのような生活をするようになりましたか。本文中の言葉を使って答えなさい。

問七 ―― 線部⑦「狩猟採集で培ってきた動物や植物についての知識やスキルは、この時点で、農耕と牧畜に活かされることになつた」とありますが、農耕に活かされたのはどのような能力ですか。本文中からぬき出して答えなさい。

問八 ―― 線部⑧「いま私たちが『自然』と思っている動植物の大部分は、自然本来のものではない」とありますが、筆者がどのように述べる理由を説明した次の文の（ ）に当てはまる言葉を、本文中から十字でぬき出して答えなさい。

いま私たちが「自然」と思っている動植物の大部分は、実は（ 十字 ）ものだから。

問九 この文章を読んで、クラスで話し合いました。本文の内容と合わないものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア Aさん「この文章は、はじめイヌの話を例にとって述べられているね。わたしはイヌがそんな昔から人間のそばにいたって知らなかった。」

イ Bさん「感情を理解するって意味じゃあ、チンパンジーもイルカもそうだって書かれているね。そうするとパンダなんかも人間の感情が理解できるにちがいないね。」

ウ Cさん「イヌはオオカミからできたんだね。わたしはオオカミとイヌは別の動物だと思っていたからびっくり。そしたらうちのイヌもオオカミの習性が残っているのかな。」

エ Dさん「後半は、人には動植物に対する好奇心があるっていう話になってくる。そういう好奇心が人間にあったからこそ一万年と少し前に人間の生活は大きく変わったんだね。」

オ Eさん「人間の好奇心って本当にすごいんだね。氷河期だって、農耕や牧畜を発明して乗り越えたんだね。それが文明の誕生につながったんだね。好奇心は生命力の証だね。」

カ Fさん「これから氷河期みたいな人間にとっての危機が訪れたとしても、人間は新しい技術を発明して生き延びていくのかもしれないね。」

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ドッジボール大会が近かった。それで、体育の時間はドッジボールの練習だ。わたしはドッジボールが苦手だから、いつもこっそり逃げ回る。標的にされないように、はしつこの方で ^a 気配を消すのだ。

ミズキは活発な子で、ドッジボールも上手だ。コートの中あたりにいて、相手の投げる強いボールを真正面から受け止めて、はやいボールを投げ返す。すばやい動きで足をうまく運び、ぎらっと相手をにらみつけて。わたしはドッジボールをしている時のミズキのことをうっとりとながめていた。

相手チームの女の子はキャーキャー言いながら逃げまどう。あつさりとボールに当たって、そそくさと外野に移動する子もいる。わたしはボールからできるだけ離れた場所の「^①だんご」の中にいる。わたしと同じようにドッジボールが苦手な女子は多い。ある日の体育の時間。ドッジボールの練習試合をしていると、ボールから離れてかたまった女子たちがふうつとふたつに別れ、光の玉が飛んできた。

「どすん」と音がしたと思う。すごい衝撃がした。^②わたしは胸のひりひりだけを感じていた。
^③それまで騒がしかったみんなの声が一瞬、消えた。

「すごい」

誰かが言った。それでわたしは我にかえった。

「え？」と言ってまわりを見渡すと、クラスメートがまじまじとわたしの方を見ていた。

わたしは自分の胸元を見た。確かに白いボールがしっかりと胸におさまっていた。それはわたしが生まれてはじめて受けたボールだった。

「ナツミ、早く投げて」

ミズキがわたしに言った。わたしはあせった。それで、相手チームに向かって急いでボールを投げたのだが、それはひよろひよろのいきおいで、すぐに地面に落ちた。

「逃げなきや」

わたしは瞬時にそう思つて、女の子のかたまりに向かって走つた。かたまりにたどり着く前にわたしのかかとのあたりにボールが飛んできて、わたしはあっさりと当たってしまった。

わたしは外野に行った後も、^④ 気持ちには晴れやかだった。さっき起こつた生まれてはじめての出来事が宝物の体験みたいに思えていた。

「すごいじゃない、ナツミ。あんな強いボール」

運動場から教室に戻る途中、わたしはミズキと一緒にいた。

「そんなことないよ。わたし、ミズキみたいになまぬいし」

わたしはそう言つたけど、ミズキはにこにこしていた。田んぼに水の張られる時期。もう日差しは強くなりかけていた。ミズキのひたいには汗が光り、体操服が濡れて背中へばりついてた。

その日の放課後、わたしはミズキと一緒に学校を出て、家に向かった。ミズキとは帰る方向が同じだった。去年は毎日、一緒に帰っていたけど、ミズキは中学受験をすることになり、学校からそのまま塾に行くようになっていたから、一緒に帰ることも少なくなっていた。

「塾、今日休み。今日は遊ぶぞ」

ミズキはおおきく伸びをして歩き始めた。彼女の水色のランドセルがわたしの目の前でふわふわと揺れた。ミズキは突然ふり返つてわたしの手を取り、「行こつ、ナツミ」と言つて、ひっぱつた。

「遊ぶって何して？」

わたしはミズキに手をひかれて、はや足になった。ミズキのテンションはいつもより高い。

「おそろいのもの作りたい。つきあって」

ミズキは長い髪を躍らせてわたしを見てほえんだ。

「おそろいの？」

わたしはミズキの気持ちが変わらなかった。

「だって、もうすぐ別々でしょ」

ミズキは少しさみしそうに言った。

「もうすぐ？」

わたしは少し変に思った。卒業まではまだ時間があつた。

「家からのこぎり持ってきて」

ミズキは明るい調子に戻って言った。

「のこぎり？」

「そう、のこぎり。四時半にタイ焼き屋の前でいい？」

タイ焼き屋は山のすそにあつた。その店はハチマキを巻いたおじいさんが経営していた。なぜ山すそにそんな店があるのかわからなかったが、わたしの生まれる前からあつて、つぶれないでやっている。

わたしは急いで家に戻り、お父さんの押入れの中の大工道具の中から少しさびたのこぎりを取り出して時計を見た。

「そんなものどうするの？」とお母さんがいぶかしむ表情をして言った。

わたしがタイ焼き屋の前に行くと、ミズキは先に来ていた。手にのこぎりを持っていた。

「何作るの？」

「貯金箱」

ミズキは笑った。

わたしはミズキに導かれるまま山に入った。山に入ってすぐ竹林があった。

「貯金箱とかどうやって作るの？」

わたしはきいた。

「こうするのよ」

ミズキはそう言うと、^bおもむろにのこぎりを構え、竹林の中の一本の竹を根っこから切りはじめた。やがて竹はザザザと音をたてて倒れた。

「この竹のね、節と節を残して切るのよ」

ミズキは上手にのこぎりを使った。わたしは^c心不乱にのこぎりをひくミズキの背中を見て、彼女は強いと思った。三十センチほどの竹が生まれた。ミズキは得意げにその竹をくるくると投げ上げては受け、わたしを見た。

「お金入れるところは？」

「こうやって、切るの」

ミズキは短い竹の片方の節の近くにのこぎりで二本切れ目を入れ、その真ん中を押した。^おすると、その部分がぼきりと折れ、お金を入れる部分ができた。

「あげる」

ミズキは竹の貯金箱をわたしの方に投げ、わたしはそれを受け取った。わたしはなんだか、とても温かいものを受け取ったような気分になって、竹の貯金箱をまじまじとながめた。

「今度はナツミがわたしのために作って」

ミズキは言った。

わたしは倒れた竹をのこぎりでひきはじめた。やってみるとひどく難しかった。わたしがのこぎりをひくのに苦労していると、ミズキの手がそとわたしの手に重なってきた。^⑤わたしの気持ちがあつと軽くなった。ミズキの手の温かさがわたしに伝わった。

ミズキが手伝ってくれたおかげで、わたしもなんとかミズキのための竹の貯金箱を作ることができた。緑色の竹の貯金箱でカンパイをした。

「はなればなれになっても、世界でわたしたちだけの貯金箱」

そう言っただけで、ミズキの顔にやわらかな夕陽^ひがあたっていた。

その夏、ミズキは家の事情で引越^こすことになり、学校もかわることになった。一学期の終業式で担任の先生がミズキのことをクラスみんなに話した。

わたしはびっくりした。と同時に、ミズキがさみしそうに言ったあの言葉の意味を理解した。

「どうして言ってくれなかったの？」

わたしは放課後、抗議^{こうぎ}する口調でミズキに言った。

「だって、言えなかったんだもの」

ミズキは少しすまなそうに言った。

「言えなかったって、あまりに急だから……」

「ごめんね」

ミズキの横顔が少しかげって見えた。

わたしはぼう然としてミズキを見ていた。⑥ ミズキをととても遠くに感じた。

わたしは今、中学生になって、小学校の隣^{とな}りの中学に通っている。ミズキはここにいない。あの夏、ミズキの連絡^{れん}先はきいたけど、わたしは一度も連絡していない。わたしは山でミズキが作ってくれた竹の貯金箱をあつさりを受け取った。けれども、その時わたしが受け取ったのは、あのドッジボールのボールみたいな強いミズキの気持ちだったのだと思う。

ミズキとふたりで作った竹の貯金箱はわたしの部屋の本だなに置いてある。あれから時間がたって、竹の色は緑色から黄色く色あせたけど、その中につまったミズキとの思い出は色あせていない。

（和歌山信愛中学校 オリジナル）

問一 部 a ～ c の本文中での意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 「気配を消す」

- ア こっそりと逃げ出す
イ 不安な気分にあえる
ウ 姿をなくしてしまう
エ 気持ちを落ち着ける
オ 目立たないようにする

b 「おもむろに」

- ア 一生懸命に
イ たのしげに
ウ あつさり
エ 突然に
オ ゆっくりと

c 「一心不乱に」

- ア 使い方に工夫をして
イ 荒っぽいしぐさで
ウ 心を落ち着かせて
エ 一つのことに集中して
オ 髪をふり乱して

問二——線部①「だんご」とはどういう状態の人たちのことをたどっていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ボールを遠くからでも投げられる肩の強い人たち。

イ すでにボールに当たってしまい外野で待つ人たち。

ウ ボールが当たらないように、かたまつて逃げている人たち。

エ ドッジボールが得意で、ボールを待ち構えている人たち。

オ 強いボールが来たらさつと避ける動きのはやい人たち。

問三——線部②「わたしは胸のひりひりだけを感じていた」とありますが、これはどのような状態ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 何が起こったかわからない状態。

イ 痛さで泣きそうになっている状態。

ウ ボールを受けて得意になっている状態。

エ ひどい音がしたために落ち着かない状態。

オ 衝撃を受けて尻もちをついた状態。

問四 ——— 線部③ 「それまで騒がしかったみんなの声が一瞬、消えた」とありますが、その理由を説明したものとして最も適当なものの中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分たちのクラスメートの中にすごいボールを投げる人がいることに驚いたから。
イ すごい音とともに「わたし」がボールを取ったのを見てうらやましく思ったから。
ウ 投げられたあまりに強いボールが自分に向かって来なくてよかったと思ったから。
エ ドッジボールの苦手な「わたし」が強いボールを受けたのを見て驚いたから。
オ とても強いボールを受けた「わたし」がけがをしていないか心配したから。

問五 ——— 線部④ 「気持ちは晴れやかだった」とありますが、それはなぜだと考えられますか。二十五字以内で説明しなさい。

問六 ——— 線部⑤ 「わたしの気持ちがふっと軽くなった」とありますが、その理由を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」には竹を切るのは難しく、代わりにミズキが貯金箱を作ってくれと思ったから。
イ 貯金箱のお礼をしなければと負担に感じていたが、お礼ができなくても許されると思ったから。
ウ 竹を切るのは難しく苦労していたが、手伝ってくれるミズキの思いやりの気持ちを感じたから。

エ ミズキはうまくのこぎりを使えたけれども、自分はうまく使えなくてもいいのだと思えたから。
オ はじめはなぜ貯金箱を作るのかわからず、そもそもそんなものは必要ないと思っていたから。

問七 線部⑥「ミズキをととても遠くに感じた」とありますが、その理由を説明したものとして最も適当なものを次の中から

選び、記号で答えなさい。

ア 「わたし」はミズキとは仲良しだと思っていたのに、大切なことを打ち明けてもらえず、さみしいと感じたから。
イ 突然のミズキの転校をきき、「わたし」は不満をもらしたが、それがミズキに全く通じていないと感じたから。
ウ ミズキにうそをつかれていたということを理解した「わたし」は、もうミズキとは友達でいられないと感じたから。
エ ミズキにだまされていたと知った「わたし」は、もう二度とミズキとは一緒に帰ることはできないと思ったから。
オ 突然の転校をきいて、ミズキに裏切られたと感じた「わたし」は、もうミズキの顔も見たくないほどだったから。

問八 線部「おそろいのもの作りたい」とありますが、本文を最後まで読んで、こう言った時の「ミズキ」の気持ちを

四十字以内で説明しなさい。

問九 この文章を読んで、クラスで話し合いをしました。本文の内容に最も近い発言を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア Aさん … わたしもドッジボールは苦手だったけど、「わたし」は強いボールを受けることができたのだし、本当は得意だったんじゃないかな。

イ Bくん … 体育の時間からの帰り道に「ミズキ」が「わたし」に「すごいじゃない」って言う場面があるけど、あれは活躍した「わたし」への嫉妬があつたんだと思う。

ウ Cくん … 何度も夕陽のシーンが出てくるけど、朝陽じゃなくて夕陽が出てくるということは、この後二人の友情がこわれることを暗示しているのかな。

エ Dさん … 「ミズキ」が夏休みが終わると転校することを「わたし」に黙っているシーンがあるけど、きっとそれはサプライズで「わたし」を驚かせようと思っていたんだと思う。

オ Eさん … 最後の方で、「わたし」は貯金箱をくれた時の「ミズキ」の強い気持ちに気づくけど、そういうのって、少し時間がたってから気づくものかもしれないね。

【問題は、これで終わりです。】

A
B
C
D
E
F

[illegible]

15

問二

問三

問四

[illegible]

問六

問七

問 八

問九

問一	a	b	c
----	---	---	---

問二

問三

問四

[illegible]

問六 問七

[illegible]

問九

受験番号

【一】

問一	① こうりつ	② ゆうえき	③ ちゅうふく	④ きょうり
⑤ 務める	⑥ 補給	⑦ 合唱	⑧ 専門	

問二	① オ	② ア	③ イ	④ エ	⑤ ウ
----	-----	-----	-----	-----	-----

問三	A カ	B ウ	C オ	D エ	E イ	F ア
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

【二】

問一	ヒ	ト	と	ほ	か	の	動	物	と	の	決	定	的	な	違	い		
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

15

問二	オ	問三	イ	問四	エ
----	---	----	---	----	---

問五	狩	猟	採	集	中	心	の	生	活
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問六	ひとところに定住する生活
----	--------------

問七	予測や洞察、周到的な計画性といった能力
----	---------------------

問八	ヒ	ト	の	た	め	に	作	ら	れ	た
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問九	イ	オ
----	---	---

【三】

問一	a オ	b オ	c エ
----	-----	-----	-----

問二	ウ	問三	ア	問四	エ
----	---	----	---	----	---

問五	生	ま	れ	て	は	じ	め	て	ボ	ー	ル	を	受	け	る	こ	と	が	で	き
た	か	ら	。																	

問六	ウ	問七	ア
----	---	----	---

問八	も	う	す	ぐ	転	校	し	て	離	れ	て	し	ま	う	の	で	、	友	達	と
の	思	い	出	を	残	し	て	お	き	た	い	と	い	う	う	気	持	ち	。	

問九	オ
----	---

二〇一九年度

和歌山信愛中学校

入学試験 B日程（午前）

国語（六〇分 一〇〇点）

受験上の注意

- 一 この問題冊子は1ページから19ページまであります。
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を

受験番号

--

開いたまま裏返しておきなさい。

〈解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。〉



【一】 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④の――線部のひらがなを漢字に直しなさい。また、⑤～⑦の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 将来かんご師になりたい。
- ② 空が夕焼けにそまる。
- ③ 電気がふつきゆうする。
- ④ よくじつは運動会だ。
- ⑤ 因果関係を明らかにする。
- ⑥ あなたの目は節穴だ。
- ⑦ 一丸となって戦う。

問二 次の――線部を正しい表現に直しなさい。

- ① この歌をぜひ私に歌わせよう。
- ② 先生が私の家にうかがった。
- ③ このすばらしい彫刻を作った人は、父の昔からの友人の作品だ。
- ④ わたしの将来の夢は、小児科の医者になろうと思っっている。
- ⑤ 姉は、高校の入学祝いに、母から洋服を買ってくれた。

問三 信子さんと愛子さんは、自由研究で、先日工場見学に行き、その時のことを今度クラスで発表することになりました。発表のときの注意点について話し合っている次の会話文の【A】～【I】に当てはまる言葉として最も適当なものを、後のア～コから選び、それぞれ記号で答えなさい。

信子 … 一文を短くするといいよね。一文の中に【A】が何組も出てくると、聞いている方はよくわからなくなってしまうから。

愛子 … うん。それと、聞いている人にわかりやすくということで言うと、これから話すことの【B】を最初に示して、それから【C】に入るとわかりやすいよね。たとえば、「私たちは、先日工場見学に行つて、社長さんにインタビューもしてきました。これから、その時のことを発表します」みたいな感じかな。

信子 … いい感じだね。でも、社長さんの話には、ずいぶん難しい言葉もあったよね。コンプライアンスなんて、絶対みんなわからないよね。

愛子 … 私も、家に帰ってから、辞書で調べたよ。でも、辞書に載^のっていた「法令遵守^{じゆんしゆ}」って言ったところで、やっぱりみんなに伝わらないよ。

信子 … 【D】で聞いただけではわかりにくい言葉は、他の言葉に言い換^かえた方がいいね。「社長さんは、会社として法律やルールを守ることが何より大事だとおっしゃっていました」って感じかな。

愛子 … うん、それならわかってもらえそう。あと、【E】もイメージしやすい形に変えた方がいいね。社長さんは「この工場だけで、一日に三キロリットルの重油が必要です」って言っていたけど、三キロリットルはドラム缶^{かん}十五本分らしいから、そう説明した方がいいね。

信子 … それに、【F】など目に見える形で見せられるものは、紙に書いて黒板にはることにしよう。

愛子 …… じゃあ、私、それ書くよ。他には、どんな点に注意したらいいだろう。

信子 …… 声の【G】や話す【H】かな。この前先生が「教室の一番後ろの人に話すつもりで、一分間に三百字のスピードで話すといいでしょう」って教えてくれたよね。

愛子 …… あとは、【I】なんかも大事じゃない。「一つ目には」って言うときに、一本指を立てるとか、「広い」とか「高い」と言うときに、両手をこうして大きく広げるとか……。

信子 …… それ、私得意。ああ、大変そうだけど、だんだん楽しみになってきた。

ア	大きさ	イ	耳	ウ	身振り ぶ	エ	あらまし	オ	図や表
カ	速さ	キ	内容	ク	数量	ケ	主語と述語	コ	目

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

渡る鳥、渡らない鳥を含め、日本では合計で六百種もの鳥が確認されています。このうち一部の鳥が町の中で暮らしています。何種見られるかというと先にも書きましたが、一年を通して五十種くらいの鳥が見られます。

では、鳥たちにとって、町はどんな環境なのでしょう。町という言葉では、少し曖昧なので、より正確に都市という言葉を使つて、都市の環境の特徴について見ていきます。

都市とは、それまで森林や草原や湿地だったところを、人が暮らしやすくするために造り変えた場所です。A 都市は、この地球上に、ごく最近誕生した新しい環境と言えます。①生態学者にとつて都市は非常に新しい研究対象です。

地球が誕生してから四十六億年、いつからのものを都市というか明確な説明はありませんが、せいぜい一万年前、近代化した都市という意味では、二百年、あるいは数十年前に誕生した環境です。

ほんの数十年前まで、生態学者の多くにとつて、都市とは自然からかけ離れた異常な場所であり、研究する対象ではありませんでした。彼ら彼女らは、なるべく人の手のかかつていない、本来の自然に近い場所で研究をしようとしていたからです。

しかし、生態学者も次第に「都市は都市独自の性質がある」という観点をもつようになってきました。森林に「樹木を基盤とした、さまざまな生物のつながりを持つ森林生態系」があるように、都市にも「都市独自の都市生態系」があると考えて、研究するようになってきたのです。今では、森林、砂漠、河川と同じように、都市も、同列に扱える環境の一つとみなすことが普通になっています。

都市の環境の特徴を考え始めるには、まずは世界中のどこが都市なのかを決定しなければなりません。ところが、②これが意外に難しい。都市を性格づける説明はいろいろあります。代表的なものは、「人口密度がある基準以上だったら都市とする」というものです。人口密度以外にも、建物の密度や舗装地面の割合を判断基準に使うこともありますし、これらを複合的に使う場合もあり

ます。しかし、統一的に使われている都市を性格づける説明はありません。

なぜでしょうか。世界中の都市は様々な形で存在しています。そのすべての状況をうまくまとめあげることができるような説明がないからです。特にある都市の定義を日本に適用すると「ど」がつく田舎も都市になってしまします。

都市とは大ざっぱに言えば、人がたくさん住んでいて、人工的な構造物が多いところと言えます。だから、本書で都市と言ったら、あまり厳密に考えずに、いわゆる商業地や住宅地などの町の中をイメージしてもらえればと思います。都市の定義は曖昧なままですが、それでも③都市がどのような環境であるか、鳥の視点で考えてみます。

都市の最大の特徴は「ある一つの種」が、空間のほとんどを独占していることです。地球上では他にこんな空間はありません。その「ある一つの種」とは、ホモサピエンス、つまり、我々のことです。こんなに人が密集している環境は他にありません。

人がいるゆえに、都市には、森林や河川には見られない、さまざまな特徴があります。都市は人がいるために、イタチ、キツネなどの哺乳類、ヘビなどの爬虫類、そして大型のワシやタカなどが少ない環境です。これらの生物は、小さな体を持つ小鳥にとつては天敵となりうるので、それらが少ない都市は小鳥にとつて安心して暮らせる場所となっています。

植物についても、特徴があります。数キロメートルの規模で、都市と山を比べれば、当然、山のほうが多くの植物種を内包しています。しかし、狭いスケールで考えると、都市の方が多くの種がいるという場合があります。

B

大きな都市公園にある

植物園では、狭い面積に、自然界ではありえないくらいたくさんの種類の植物が、人の手で植えてあります。日本産のものではなく外国産のものもたくさんあります。そのため「都市に生き物の種類が少ない」とは簡単には言えません。

また都市では、特定の数種の植物が固まって生えていることがあります。たとえば、道路際に、街路樹として、同じ種類の樹木がずらっと並んでいます。自然環境で同じ種類だけが並ぶというのは、そうあることではありません。これも都市の特徴です。

都市の物理的な環境も、自然環境のそれとは大きく異なります。

生き物の足場となるところを基質といいます。都市は基質が安定した環境といえます。自然環境では、台風などで、大規模に

樹が倒れたり川の流れが大きく変わったりすることがあります。そういったところにいた鳥たちにとっては、一夜にして、自分の営巣場所や餌場の状況が変わってしまいます。もちろん、都市も台風による被害はあります。しかし、それでも相対的に見れば、都市全体は安定しています。

C、そうならないように、人が管理しているからです。

気温についても、変化が少ない傾向にあります。都市はヒートアイランドによって、夏は暑くなりすぎる傾向があつて、これはこれで生き物にとつては大変だとは思いますが。

D このことは、真冬にはむしろ好都合です。というのも小鳥のように体が小さな生き物にとつて寒さは死活問題だからです。餌が採れず、寒い日が続けば、体の中で熱を作り出すことができないので死んでしまいかねません。しかし、都市の冬は自然環境に比べて気温が高く、小鳥たちは熱を発生している建物の外壁などに止まることで、体温の低下を抑えることができます。

都市は、水が安定して供給される場所でもあります。噴水などがあれば、そこに行けば確実に水を得られます。ただし、この点に関しては、雨の少ない気候帯での利点であつて日本にはあまり当てはまらないかもしれません。

このように都市の環境は、自然の環境とは異なる性質を持っています。一部の鳥種たちは、この環境にうまく適応して、都市に生息しています。

しかしながら、都市に生息している鳥の種類の数が自然界に比べて少ない。ということは、^④都市には住めない鳥種もたくさんいるということです。どんな鳥種が住めないかといえば、まず人を恐れている鳥にとつては、けっして落ち着ける場所ではありません。それから、トカゲやネズミのような小動物を捕まえるワシタカのような肉食で体の大きな鳥にとつては、都市は餌が少ないので住めない空間です。また、大きな木の洞を巣として使うフクロウや、藪の中に巣を作るウグイスのような森の中に巣を作る鳥にとつても、やはり都市は生息しにくい環境です。

このように、それぞれの鳥種が持っている、食べるもの、巣を作る場所などの性質によって、都市に住めるかどうかが決まります。

鳥たちが持つ独特の性質は、⑤都市でしか生きることのできない鳥種を生むことにもなっています。

カラスの仲間は都市にも自然の山野にも住める素地を持つていえるといえます。カラスの仲間は、本来、山野にある樹に巣を作り、その周辺で餌を採っていました。今でも山野にいますが、一部のカラスは、道路際の街路樹に巣を作り、ごみを漁ること、都市の中にも適応しています。都市の中で見られる鳥種の多くは、このように、自然環境でも生息しながら、都市に生息できる素地を持つているので、都市にも生息しています。

一方で、都市という環境ができてから時間が経ったためか、都市の中でしか生息できなくなった種もいます。ハトなどがそうです。これらの鳥は天敵から身を守るために、人が作った構造物の間で生きていく戦略を進化させてきました。結果、人が少ない場所では、もはや生存できなくなっています。人が絶滅したら、一緒に絶滅してしまう鳥たちかもしれません。

都市の中で生活できる鳥でも、都市の中ならどこにでもいるというわけではありません。駅前ビル街のようなところにいるものもいれば、庭があるような住宅地を好むものもいます。都市の中にポツンと島のように浮いている公園などにもたくさんの鳥がいます。もしインターネットの航空写真が見られる状況にあるなら、ぜひ、自分が住んでいる町を※俯瞰してみてください。すると、コンクリートで固められた灰色の基調の中に点々と緑の島が見つけれられると思います。それらの緑の島は、木々が固まったところ、大きなものは、城跡だったり、神社だったりします。それ以外にも寺、学校、公園、あるいは川沿いに、緑の島が見つかります。鳥たちは、こういうところにたくさんいます。木に巣をかけたり、そこにいる餌を採ったりできるからです。緑の島の規模が大きくなるほど、それだけ、藪を含んだり、水辺を含んだりするので、観察できる種類が増えていきます。

同じ場所でも、見られる種数は季節によって異なります。それぞれの種の生息場所の選択は、春から夏がもっとも強くなります。というのも、春から夏にかけて、鳥たちは子育てをしますから「巣を作って子育てができる」環境が必要になるからです。例えば、スズメやツバメのような鳥は、人家に巣を作って子育てをしますので、巣を作れる人家と、餌を採ることができる公園などの場所

が必要になります。一方、冬は巣を作る、子育てをする、という制約から解放されます。鳥たちも自分が食べていけるだけの餌を確保できればよくなります。そのため、小さな公園でも、見られる種類が増えるのです。

私はバードウォッチャーですので、自然の中に鳥を見に行く楽しさはわかります。しかし、それは、バードウォッチングの楽しみの半分くらいを捨てていることになりかねません。実は、^⑥町の中で鳥を見ることには、自然の中で鳥を見るのとは異なる利点や楽しさがあるのです。町の中でも鳥たちはさまざまな姿を人間に見せてくれます。そしてそれを見ることは素晴らしいことです。実際、町の中にいる鳥はすぐに見られるし、鳥たちのほうでも、人を避けて生きようとする鳥たちとは違って、あえて好き好んで町の中に住み、人を意識して生活することによって身に付いた、たくましさ、対応力があります。それがおもしろいのです。

町の中で鳥を見るということは楽しいことです。だれもが町の中にいる鳥にちよつと目を向けて、それを楽しめるようになるといいですね。そういった鳥たちが身近にいることに価値を感じることができて、そして、鳥と人の共存のためにどんな町を作ったらいだろうかと、みんなが少しずつ知恵を出していける。そんな風になれば、日本の都市は今よりもっと素敵な場所になるのではないかと思います。

(三上 修『身近な鳥の生活図鑑』より)

注 ※ 俯瞰・・・高い所から広く見渡すこと。

問一 本文中の A D に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ただし、同じものを二度選んではいけません。

ア 例えば イ しかし ウ だから エ なぜなら

問二 ——— 線部①「生態学者にとって都市は非常に新しい研究対象です」について、後の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 生態学者たちがかつて、「都市」を研究しようとしなかったのはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 地球が誕生してからの長い歴史の中で、いつからのものを都市というか明確な説明がなかったから。
- イ 生態学者たちは、本来の自然に近い場所における生き物の研究に意味があると考えていたから。
- ウ 都市とは自然からかけ離れた異常な場所であり、その研究は不可能なものだと考えられていたから。
- エ 都市とはそれまで森林や草原や湿地だったところを人が暮らしやすく改良したところであったから。
- オ 町や都市という言葉は指している言葉が曖昧^{あいまい}で、研究者にとってとらえどころがなかったから。

(2) 「都市」を研究対象とした生態学者たちは、現在「都市」についてどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 森林や砂漠にさまざまな生き物のつながりがあるように、都市とは都市の生き物たちが独自のつながりをもつ一つの環境であると学者たちは考えている。

イ 森林には樹木を基盤とした生き物同士のつながりがあるが、樹木の少ない都市には生き物の自然なつながりが存在しないと学者たちは考えている。

ウ 砂漠や河川といった場所は生き物が生きていくのが簡単であるが、都市とは生き物が生きるには非常に困難な場所であると学者たちは考えている。

エ 森林や河川などの本来の自然と全く同じ生き物のつながりを見ることができるので、都市は魅力みにあふれた場所だと学者たちは考えている。

オ これまで都市と自然は同じような場所だとされていたが、都市の巨大化きょくと共にその異常さが目立つようになったと学者たちは考えている。

問三 ― 線部② 「これが意外に難しい」について、後の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「これ」とは何を指しますか。本文中の言葉を使って、二十字以内で説明しなさい。

(2) 「これが意外に難しい」のはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 世界中いたるところに都市は散らばっていて、都市のすべてを見てまわることはできないから。

イ 世界中の都市は人口が多すぎて、その人たちすべてを満足させるような都市づくりはできないから。

ウ 世界中の都市には人工の構造物が多すぎて、そのすべてを一つに性格づけることができないから。

エ 世界中には多様な人が生活しているために、その人たちすべてを理解することはできないから。

オ 世界中の都市はさまざまな形で存在していて、そのすべての状況をまとめあげる説明ができないから。

問四

——線部③「都市がどのような環境であるか、鳥の視点で考えてみます」とありますが、都市に住む「鳥の視点」から見た都市の環境の特徴の説明として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 都市には人が多く住んでいるために鳥たちの天敵となる動物たちが少なく、鳥たちにとって安心して生活できる場所となっている。

イ 都市は人間が環境を管理しているので生き物の基質が比較的かく一定であり、鳥たちにとって自然環境よりも安定した場であると言える。

ウ 都市の気温は自然環境に比べて変化が少ない傾向にあり、特に寒さが苦手な鳥たちにとっては都市は生活しやすい場所になっている。

エ 都市には植物園があり、たくさんの種類の植物が存在しているので、鳥たちにとっては豊富な餌が手に入る場所となっている。

オ 都市は自然の環境と違い水が安定して供給される場所であり、これは雨の少ない地域の鳥たちにとっては生きるための大きな利点である。

問五 ——— 線部④ 「都市には住めない鳥種もたくさんいる」とありますが、都市に住めないのはどのような鳥ですか。本文中から三つ、それぞれ十字以内でぬき出しなさい。

問六 ——— 線部⑤ 「都市でしか生きることのできない鳥種を生むことにもなっています」とありますが、この鳥たちが都市でしか生きられないようになったのはなぜですか。本文中の言葉を使って、四十字以内で説明しなさい。

問七 ——— 線部⑥ 「町の中で鳥を見ることには、自然の中で鳥を見るのとは異なる利点や楽しさがあるのです」とありますが、筆者は町の中の鳥のどのようなところに「利点や楽しさがある」と感じているのですか。本文中の言葉を使って、五十字以内で説明しなさい。

問八 本文の内容として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 都市の中で見られる鳥の中には、都市でしか生息できない種や、人間の天敵となってしまう種も数多く存在している。

イ 都市の中で生活できる能力を持っている鳥であれば、都市の中ならどこでも暮らすことができ、その姿を確認することができる。

ウ 都市の中で環境を上手く利用しながら生きる鳥の姿を調べることは、私たちが住んでいる都市の姿を考え直すいい機会になりうる。

エ 都市の中で観察したい特定の鳥がある場合、場所さえ同じであれば、すべての季節を通して同じ鳥を観察することが可能である。

オ 都市の中で鳥を見ることは非常に楽しいことなので、自然の中で鳥を見るという一般的な行為よりも大切にすべきである。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「書記に塚原マチさんを推薦します」

一年五組の教室で、威勢よく手を挙げた光田琴穂の口からその声が出た瞬間、背筋に冷たいものがすべり落ちた気がした。あわてて顔を見つめるが、琴穂はマチの方を見ないで、まっすぐ黒板を見つめて続ける。

「理由は、昔から字がうまいからです。小学校が一緒なんだけど、その頃から何回か書記やってたもんね？」

尋ねるときだけ、マチの方を見る。マチはどう答えていいかわからず、顎だけゆっくり引いて頷いてしまった。確かにそうだった。だけど、そうやって引き受けた書記は自分から立候補したわけではなく、そのときだって誰かから推薦されたからやっただけだった。

「じゃあ、塚原さん、どうですか」

すでに委員長に決まり、みんなの前に立った守口みなみが言う。小学校の違う彼女は、まだ知り合って間もないクラスメートだった。が、そのみなみから「塚原さん」と急に名前を呼ばれると、おなかの奥が（ A ）緊張したように痛くなる。

背が高く、首筋までのショートカットの髪は、いかにも昔から運動をやっているような雰囲気だ。その（ B ）した物言いや、何より入学して二週間足らずの新学期の教室で、堂々と手を挙げて委員長に立候補するなんて、マチには想像もできないくらいの活発さだった。

「私……」

気後れしながらも（ C ）立ち上がると、クラスの全員が自分を見るのを感じた。【 X 】がすくんだようになる。

（断らなきや）

小学校の頃から、いつもそうだった。自分の意見がはっきり主張できないことを、両親や先生から注意されていたし、誰かから

頼まれごとをすると、マチはなかなか断ることができない。中学に入ったら、そんな自分の性格を直したいと思っていた。

「どう？ 塚原さん。書記の仕事、嫌？」

担任の先生までが言う。

仕事が嫌なのではなくて、こうやって流されてしまうのが嫌なのだと告げようとするが、大勢の人を前にしたら、どう言えばいいのか分からなくなった。①

前①に①いる①みな①みが①につこりと笑った。

「ありがとう。じゃ、書記は塚原さん。早速だけど、前に出て黒板に書くのを代わってもらっていいですか」

「はい」

返事をして前に行く。人から注目されるのは苦手だった。前に歩き出すとき、膝に嫌な力が入ってしまう。すでに黒板に書かれた名前を見る。

副委員長は、さつき自分を推薦した光田琴穂と、長沢恒河に決まっていた。恒河もみなみと同じ小学校出身で、昔から二人は仲がいいのか、さつきから【Y】の合った調子でサバサバと議事を進めていく。彼もまた明るくはつきりと物を言えるタイプなのだろう。

「今から他の委員決めるけど、みんな、しっかり立候補しろよ！」

ふざけ調子に恒河が言い、それをみなみが「恒河」と名前を呼んで軽くたしなめる。

②胸の奥がちくりと痛んだ。なにげないはずの恒河の言葉が、黙って座っていた自分の心の中に残った。

黒板の前でチョークを握りしめながら、マチは、そういうはこの間の部活を決めるときもこんなふうだったことを思い出していた。

二週間前、入学式が終わったすぐ後で「マチ、部活どうするの？」と琴穂から話かけられた。

琴穂もまた、小学校から学級委員などをつとめ、友達が多いタイプだった。昔から仲がいいけど、まぶしいほどにはつきりと相手に言葉をぶつける琴穂と自分は、まるで性格が違う。

「私、陸上部に入ろうかと思って」

「え。運動部なの？ マチには似合わない気がするけど」

勇気を出して言ってみたのだが、次の言葉が続かない。確かに小学校では運動部に入ってこなかった。黙ってしまったマチに、琴穂がさらに言う。

「あと、噂^{うわさ}だけど、陸上部は練習厳しいし、先輩^{ばい}たちもみんな怖^{こわ}いらしいよ。やめといた方がいいかも」

「そうなんだ……」

琴穂の言葉に、ふくらんでいた期待が急にしぼんでいくのを感じた。

「琴穂はどうするの、部活」

「私？ バスケット。小学校の頃からミニバス好きだったし」

琴穂とのやりとり以降、今では陸上部に入りたいという気持ちはだいぶなくなっている。仮入部のための見学にも一度も行っていない。運動部に入る気がなくなっても、何かの部活には入らなければならない。今のところ、校庭でペットボトルを打ち上げる活動があると聞き、楽しそうだと科学部だけを見学に行った。このまま、自分は科学部に入るのだろうか。

委員長になったみなみが陸上部に入るつもりらしいことを、マチはもう聞いて知っていた。本当に、あの子はなんて自分とは違うのだろう。憧^{あこが}れに似たため息が落ちて、それからやはり自分のことを考えると落ち込^こんでしまう。

一日の授業が終わり、運動部に行くクラスメートたちが着替^かえのジャージを手に教室を出て行くのを眺^{なが}めていると、ふいに背後から「塚原」と呼ばれた。振り返^ふると、隣^{となり}の席の海野奏人^{かなと}だった。

クラス一背が高く、男子の大半が坊主頭^{ぼうず}かスポーツ刈^がりのうちのクラスでは珍^{めづ}しく、茶色がかった髪をさらっと流している。普^ふ

段の口数は少ないが、授業で誰も分からない問題に一人だけ正解を答えるような場面をもう何度か見ていた。隣の席だけど、話すのは、ほとんど初めてだ。

「今日、科学部行く？」

「あ」

聞かれて思い出した。何回か行った科学部の見学に、奏人もいつも来ていた。彼はきつと入部するつもりなのだろう。奏人がほほえむ。

「もし行くなら、今日は校庭で活動するらしいよ」

「うん。ありがとう」

「おい、奏人。今日、自転車置き場で待ち合わせしようぜ」

奏人の横で、部活に向かう途中の恒河が言う。彼はサッカー部で、持っているシャーペンや下敷きも、マチの知らない外国のサッカー選手の写真入りのものが多い。同じクラスでしばらく見ていて驚いたのだが、一見正反対に見えるこの二人は、小学校からの親友で仲がいいらしい。

「わかったよ。部活が終わったらそこで待ってる」

奏人が答える声を聞きながら、せっかく誘われたのだから、校庭で科学部を見学しようかな、とぼんやり考える。

はつきりと意見を言えない自分を変えたいという目標を叶えるには、^{かな}③ まだまだほど遠いことを実感する。

校庭に向かう前に、マチは図書室に寄ることにした。小学校の頃から本が好きで、六年間かけて、前の図書室の本は大半を読んだように思う。中学に入ったら、きつともっと大きな図書室に通えるのだろうと心待ちにしていた。

中に入り、本の匂い^{にお}をかぐと気持ちが落ち着いた。しかし、貸し出しカウンターの向こうに、当番らしい図書委員の先輩が座って本を読んでいるのを見て、昼間の学級会で感じたおなかの痛みがまた戻^{もど}ってきた。

マチは本当は図書委員になりたかった。

だけど、クラスの中でできる役職は、一人につき一つだけだ。書記を引き受けてしまったせいで、委員会に入れなくなった。私
I せいで。

考えても仕方がない、首を軽く振り動かし、借りる本を選ぶ。たとえば仮入部であっても、部活の時間に遅れるわけにはいかなかった。

小説の棚を眺め、一冊の本に【Z】を留める。リザ・テツナーの『黒い兄弟』。過酷な境遇の中、仲間と助け合って困難を乗り越えていく煙突掃除の少年たちの話だ。小学校の図書室にもあったけど、また読み返せるのだとうれしく思いながら、本を手にとる。

④ たとえ同じ作品であっても、子ども向けに書かれたものと大人向けのものがあることをマチは知っていた。これまで自分が読んできた本とは違うだろうか。

新しい、中学校の本。ここにあるすべてをこれから三年間かけて読んでいいのだと思うとわくわくする。ページをめくると、何かが間をすつと通りぬけるように落ちた。

(あつ)

一瞬、花びらか何かが風に舞ったように見えた。あわてて落ちた方に視線を向け、床から拾い上げると、それは一枚の細長い紙だった。便せんのようにも見える。

紙には文字が書かれていた。

(辻村 深月 『サクラ咲く』より)

問一 本文中の（ A ）（ B ）（ C ）に当てはまる言葉として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア おずおずと イ うきうきと ウ きゅつと エ やすやすと オ はきはきと

問二 「 X 」「 Y 」「 Z 」にそれぞれ当てはまる漢字一字を答えなさい。

問三 ——— 線部①「かわりに口から『やります』というか細い声が出た」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 本当はやりたかったので、推薦されてうれしかったことをみんなに悟^{さと}られないようにしたかったから。
イ 本当はやりたかったので、これからクラスを引っ張っていける存在になることがうれしかったから。
ウ 本当はやりたくなかったけれど、みんなに注目されている状況^{きょう}では、うまく断れそうになかったから。
エ 本当はやりたくなかったけれど、今までの消極的な自分を変えたいという前向きな思いになったから。
オ 本当はやりたくなかったけれど、後で両親から注意されてしまうのではないかと怖^{こわ}くなったから。

問四

――線部②「胸の奥がちくりと痛んだ」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア みなみと恒河の仲に、自分が入り込むことができないと分かったため。

イ 自分が事前に琴穂に推薦してほしいと頼んでいたことがばれたと思ったため。

ウ 自分は立候補ではなく推薦されたことを暗に批判されているように感じたため。

エ 恒河のように明るくはつきりと物を言えない自分のことが嫌になったため。

オ 長い間ひそかに好意を持っていた恒河から嫌きらわれたことを確信したため。

問五

――線部③「まだまだほど遠いことを実感する」とありますが、マチがそう思ったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 今すぐにでも科学部に入部したいということを奏人に伝えていなかったから。

イ 奏人や恒河と一緒に帰りたいという強い思いを伝えることができなかったから。

ウ 科学部の見学の時に奏人と話してみたいという思いがあつたのにできていなかったから。

エ 奏人と一緒にやないと科学部に行きたくないという気持ちをはつきり伝えなかったから。

オ 科学部に見学をするかしないかということに対する自分の考えを奏人に伝えていなかったから。

問六

I

に当てはまる言葉として適当なものを本文中から十二字でぬき出しなさい。

問七

——線部④「たとえ同じ作品であっても、子ども向けに書かれたものと大人向けのものがある」とありますが、次のAの資料は、リザ・テツナー『黒い兄弟』の子ども向けの本の本文、Bの資料は『黒い兄弟』の大人向けの本の本文です。A・Bの資料を見比べると何が違いますか。三つ考えて答えなさい。

A

だんろのそばに立っていたジオルジョが、うなずいていました。「それに、アナグマを見つけたんだ」
「とうぜん、あとを追いかけたんだろうな」と、父さんがいすにすわりながらいいました。
「う、うん」ジオルジョは口ごもりました。いつてしまってから、アナグマのことはだまっていたほうがよかったと気がついたのですが、もうどうしようもありません。
「そうだろう。いいか、今日の夕食はないと思え」父さんはそういうと、おばあさんがテーブルにおいたなべから、そば粥をすくいました。父さんと母さんは、だまってゆっくりと粥を食べました。

B

暖炉のそばに立っていたジオルジョが、うなずいて言いました。「それに、アナグマを見つけたんだ」
「当然、あとを追いかけたんだろうな」と、父さんが椅子に座りながら言いました。
「う、うん」ジオルジョは口ごもりました。言ってしまったから、アナグマのことは黙っていた方がよかったと気がついたのですが、もう後の祭りです。
「そうだろう。いいか、今日の夕食はないと思え」父さんはそう言うとおばあさんがテーブルに置いた鍋から、そば粥をすくいました。父さんと母さんは、黙ってゆっくりと粥を食べました。

問八 次の会話は、本文を読んだ二人が話し合っている場面です。これを読んで、会話文の【a】【c】【d】に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれぬき出しなさい。

信子 … マチは自分の思っていることをもつとしつかり言えがいいのに。

愛子 … でも、私はマチの気持ち分かるなあ。私もみんなの前で話をしないとイケない時、おなかが痛くなるよ。言いたくても言えない時ってあると思わない？

信子 … マチは琴穂から書記に推薦された時、「断らなきゃ」って思ってるよね。どうして断ろうとしたのかな。

愛子 … 本文の中に「【a】と書いてるよ。クラスの役割って一つしかできないのに、他の役割に推薦されちゃうと困るよね。」

信子 … 愛子でもそんなことを思うんだ。私にとつての愛子はマチから見た【b】みたいで、憧れの存在なのに。

愛子 … 恥ずかしいからやめてよ。でも、この文章は最初から最後まで【c】の視点から描かれて^{えが}いるから、すごく感情移入しやすい文章だと思わない？ 特に最後の場面で「うれしく」とか【d】という前向きな言葉でマチの心が表現されていて、これからマチがどんどん成長していきそうな予感がするよね。

信子 … さすが愛子だなあ。私は全然気付かなかった。でも、愛子の言う通りだと思うよ。ここから先の展開が楽しみだね。

【問題はこれで終わりです。】

問
一

⑤	①
⑥	② まる
⑦	③
	④

問
二

⑤	③	①
	④	②

問
三

A
B
C
D
E
F
G
H
I

【一】

問
一

A

A
B
C
D

問
二

(1)

(1)
(2)

問
三
(1)

[illegible]

(2)

1000000

問
四

問
五

[illegible]

問六

[illegible]

問七

[illegible]

問
八

【三】

問
一

A

A
B
C

問
二

X
Y
Z

問
三

問
四

問
五

問六

[illegible]

問
七

問
八

c	a
d	
	b

問一	
① 看護	② 染
⑤ いんが	⑥ ふしあな
	③ 復旧
	④ 翌日
⑦ いちがん	

問二	
① 歌わせてください・歌わせてほしい	② いらっしゃった・こられた
③ 父の昔からの友人だ	④ 小児科の医者になることだ
⑤ 母から洋服を買ってもらった	

問三	A ケ	B エ	C キ	D イ	E ク	F オ	G ア	H カ	I ウ
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

【二】	A ウ	B ア	C エ	D イ
問一				
問二	(1) イ	(2) ア		

問三	(1) 世界	中の	ど	こ	が	都	市	か	を	決	定	す	る	こ	と	。		
----	--------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

(2) オ	問四		エ
-------	----	--	---

問五	人	を	恐	れ	て	い	る	鳥			肉	食	で	体	の	大	き	な	鳥	
----	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

森	の	中	に	巢	を	作	る	鳥	
---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

問六	中	天	で	敵	か	ら	身	を	守	る	た	め	に	人	が	作	っ	た	構	造	物	の
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問七	あ	と	す	る	に	ぐ	と	よ	に	見	ら	れ	る	し	、	人	を	意	識	し	て	生	活	す	る	こ
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問八	ウ
----	---

【三】

問一	A ウ	B オ	C ア	問二		X 足	Y 息	Z 目
----	-----	-----	-----	----	--	-----	-----	-----

問三	ウ	問四		ウ	問五		オ
----	---	----	--	---	----	--	---

問六	は	っ	き	り	と	意	見	を	言	え	な	い
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問七	文字の大きさ		使われている漢字の数		文章の表現	
----	--------	--	------------	--	-------	--

問八	a マチは本当は図書委員になりたかった	b （守口）みなみ
----	---------------------	-----------

c （塚原）マチ	d わくわくする
----------	----------

二〇二〇年度

和歌山信愛中学校

入学試験 B日程（午後）

国語（六〇分 一〇〇点）

受験上の注意

- 一 この問題冊子は1ページから21ページまであります。
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、問題冊子と解答用紙の両方に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙を開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

（解答は、句読点や記号も一字分と数えて記入すること。）

【一】 次の問いに答えなさい。

問一 ――― 線部①～②の漢字の読みをひらがなで答えなさい。 また、 ――― 線部③～⑥のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 必死の形相で走る。 ② 海底の様子を探知する。
③ 台風にそなえる。 ④ まいきよにいとまがない。
⑤ 神社にさんぱいする。 ⑥ かぶしき会社を設立する。

問二 例にならって、次の①～⑤の文の「」に当てはまる言葉をひらがなで答えなさい。ただし、それぞれの言葉は（ ）内の字数であり、「」の中にある文字で始まるものとします。

【例】 父は忙しそうだったので、話しかけるのが「た　　」れた。(4) 【答え】 ためらわ

- ① 甚じん大な被害の上に寒さが一段と強まって、被災地の人々の苦勞が「し　　」れた。(3)
② 今後の活躍を期待されていた歌手が、多くの人に「お　　」れながら引退した。(3)
③ とんでもない失敗をしてしまったが、友人の言葉に「す　　」れる思いがした。(3)
④ 大きな台風が近づいているので、運動会の開催が「あ　　」れている。(4)
⑤ 彼女からの突然の告白に、彼の動揺する様子が「う　　」れた。(4)

問三 次の文章は、ある生徒が「自己を語る」というテーマで、一分間スピーチをした時の内容です。また、後のA～Fは、このスピーチをするための手順を示したものです。A～Fを正しい順番に並べかえなさい。ただし、三番目にD、最後にAがくるものとします。

私が大切にしているものは、このバスケットボールのユニフォームです。小学校六年生の冬、ミニバスケットボールの県大会に出たとき着たものです。

私たちは優勝を目指して必死でプレイしました。しかし、準決勝で三点差で負けてしまい、あと一歩のところまで決勝戦に行くことができませんでした。これは、今までで一番悔しい思い出です。

でも、悔しいことばかりではありません。大切な仲間ができました。このユニフォームには、その仲間たちの言葉が寄せ書きされています。私にとって、かけがえのない宝物です。

今、私は学校のバスケットボール部に入っています。目標は、県大会に出て優勝することです。そのために、毎日練習に励んでいます。

これで、私の話を終わります。

A

スピーチをする

メモばかり見ず、聞き手の顔を見て話すようにしよう。聞き手がよくわかっていないようなら、もっとゆっくり話したり、表現を変えて言い直すようにしよう。

B

題材を集める

言いたいことを伝えるのにふさわしいことから書き出してみる。「あと一歩で決勝戦に行けなかった（今までで一番悔しい思い出）」「大切な仲間ができた」「仲間の寄せ書きが入ったユニフォームは私の宝物」「今度は優勝したい」

C

練習する

時間内に話せるか確かめる。少し恥ずかしいけれど、家族に聞いてもらって、早口すぎないか、はっきり発音できているかをチェックしてもらおう。

D

話す順番を考える

まず初めに、何について話そうとしているかをはっきりと示し、次にエピソードを話し、最後に一番言いたいことを言うようにしよう。

E

スピーチメモを作る

文章の形にしたものを暗記してスピーチしてしまうと、読み上げるだけになってしまうので、手がかりになる単語くらいを書いておくだけにする。

F

話題を決める

いくつか書き出して、話しやすそうなものを選ぶ。「私の趣味^{しゅみ}」「大切にしているもの」「今、一番関心があるもの」「私の一番好きなもの」

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人類はその発生以来、みずからの生存のために周囲の動植物を利用してきた。人類を含む霊長類は基本的に森林が生活の場であり、樹木の葉や若い芽、花・果実など植物を主食としてきた。また人類は進化とともに肉食に傾いていく。植物に比べタンパク質・脂肪などの栄養価が高い肉は、脳の発達に貢献したはずである。こうして動物利用は第一に食料としてであり、A身にまとう毛皮、装飾、住居など多岐にわたった。

人類が農業を獲得してからは、焼畑にせよ開墾にせよ農地の拡大は野生生物の生息地を奪う結果をともしなした。農業によって食料の供給が安定すると人口の増大を引き起こし、それは農業の発展、農地の拡大をもたらしことになる。

その後の人類による森林の焼却、樹木の伐採、河道の変更、堰やダム構築、干拓・埋め立てなどは、複雑な関係において野生動物の生息地を破壊する結果をもたらし、動物の利用そのものと生息地の破壊を通じて、野生生物に著しい圧力をおよぼした。その結果、野生動物の絶滅をもたらしになった。

肉食動物は他の一定の種の動物を食べている。B、肉食動物が食物となる動物種を絶滅させたという例はないといつてよい。食物になる種の絶滅は食べる側の種の自滅につながるからで、進化の過程で食物種と肉食種の共存の関係がなくなりあげられたものと考えられる。

C、ウサギとキツネの関係で考えると、食われるウサギが捕食によって減少すれば、食物の減ったキツネも増殖が衰えて減少に転じ、その分、捕食圧の減ったウサギは増殖することになる。D、ウサギの増減の波に遅れてキツネの増減の波があるということである。実際ウサギが減った場合、キツネはウサギに出会うチャンスが減り、ネズミなど小型のもつと数の多い動物を捕食する。その間にウサギが増殖することが可能となる。いずれにしても長期間についてみれば、食われる動物と食う動物の間にはある動的な※平衡が成り立っているのが自然の一般である。そうやって動物たちは何百万年にもわたって、その生存

を維持してきたのである。① 自然の法則のもとでは、食われる側の動物も食う側の動物も共存しなければならなかったのである。

しかし、人類の場合は道具という身体外部の手段をもち、道具を改良することができたため、自然の制約から解放された。農耕と牧畜を営む人間の社会になってからも、食料以外のところで※乱獲は続いた。そこには生物が※利潤の対象になるという人間特有の要因が入り込んだからであった。②そして生物の絶滅を招いていく。

リヨコウバトの絶滅は記憶に新しい近年の出来事であるため、乱獲による絶滅の有名な例としてよく引き合いに出される。リヨコウバトは北米の落葉樹林に何十億羽という数で生息していた。渡りをし、季節になると数日間昼夜切れ目のない大群が移動したという。十九世紀まではこのような状況が続いていたが、食用となるため無秩序な商業的ハンティングによって大量に捕殺された。その結果、個体群がある数を下回るようになると、繁殖の条件が満たされなくなり、ハンティングが成り立たなくなった。とも野生のリヨコウバトは減り続けた。一九一四年アメリカのシンシナティ動物園で飼育されていた個体が死亡したのを最後にこの鳥は地上から姿を消した。

日本における太平洋戦争後の絶滅事例として有名なものはトキの絶滅であろう。トキは江戸時代には江戸にもいたとされる鳥で、水生の魚や貝を食料としていた。明治期には美しい羽毛や食用の肉を得るために乱獲された。太平洋戦争後は土地の開発熱が高まり、結果としてトキの生息地が減少した。さらに一九六〇年以降に使用された農薬が水田や河川の水生動物を激減させ、トキは急激に数を減らした。二〇〇三年秋、最後の個体であった飼育中のメスの老鳥一羽が死亡して、日本のトキは完全に姿を消した。

今日の社会は万事が経済を尺度としている。この社会においては、植物も動物も野生生物は資源とみなされる。それは生活物資、工業原料だけでなく、エコ・ツアーの場合は観光資源という呼ばれ方をするを含めて資源とされる。他方、イノシシやサルの農作物食害に代表されるような被害は経済的損失とみなされ、いずれにしても私たちは野生動物と経済尺度をもって※対峙している。

野生生物の消滅に代表される自然の破壊が、多くの人々の関心を集めている今日、私たちは、^③人間にとっての野生生物の価値とはなにか、の問いなおしをしなければならない。そこから、なぜ、野生生物を保護するか^④の答えがでてくるだろう。

人間にとって自然は資源として重要な存在であるという認識は常識となっている。野生生物も自然物として例外ではない。野生生物の資源的価値は、魚食が普通^ふになっている日本人にとっては自明であろう。養殖魚は人工の産物ともいえるが、漁獲のほとんどは野生の魚類が占^しめている。また直接的な利用のほかに、魚類を家畜や家禽^{きん}の餌^{えさ}に用いるなど、間接的に野生生物を食料資源として利用していることもある。

食料以外に衣服・住居・紙パルプ・鑑賞^{かん}など、数え切れないほど多種多様な形で人間は野生生物を資源として利用している。最近、人気のあるエコ・ツアーは野生動物の生活を観察するものだが、すでに観光資源という呼び名が生まれている。

注意しなければならないのは、野生生物を資源的価値でしか見ていない現在の風潮である。

沖縄・奄美^{あまみ}地方においては、行政にとってハブは駆除^くの重要な対象となっている。本州においても林業従事者はマムシをみかけると叩^{たた}き殺し、穴を掘って埋めてしまうことを筆者は何度も目撃^{げき}した。いずれも不用意に噛^かまれて事故を起こさないためであろう。これらの場合は、毒ヘビは負の資源的価値をもつことになる。郊外^{こう}に近い住宅地ではスズメバチが同様な扱い^{あつか}を受ける。連絡^{れん}すれば行政が巢の駆除をしてくれる。

しかし、一方でヘビ毒やハチ毒は薬用にされている。マムシを焼酎^{しょうちゅう}などに漬^ひけて、強壯剤^{きやうざうざい}として愛用している人がかなりいる。この場合は立派な薬用資源ということになる。

この^④相反する事実をどうみるか。毒ヘビが人間に「もっとよく野生生物（自然）を理解しろ」と教えているのだと、筆者は考えている。毒ヘビに限らない。あらゆる野生生物が人間により深い理解を迫^{せま}っている。この意味で野生生物（自然）には教育的価値がある、といいたい。

教育的価値とは教材として利用する価値とは次元が異なる。教材利用は資源利用の※範疇^{はんちゅう}にいる。

あらゆる野生生物に教育的価値があるといったが、ではゴキブリにどんな教育的価値があるか？ と聞かれたら、筆者は即答できない。それはゴキブリを不快動物としてよくその生態を観察していないからであろう。

昔はゴキブリを家の中でみかけることはあまりなかった。ネズミがいて食っていたらしい。そのネズミはアオダイショウに食われていた。人間の食べかす―ゴキブリ―ネズミ―アオダイショウの食物連鎖が人家において成立していたらしい。人家の以前に野外で同じような食物連鎖があったであろう。

動物は必ずなにかの植物・動物を食い、別のなにかの動物に食われる。生物進化というと、ウマの進化、トラの進化など一つの種に着目して語られることが多い。しかし、食物連鎖はいつの時代にもあったにちがいないから、生物の進化とは一つ一つの種が独立して行われたのではなく、食物連鎖をはじめとする諸々の植物・動物の種間の関係（というよりしがらみ）を通じて行われたにちがいない。そうだとすると生物界に無用・無駄な生物種はないことになる。言い換えれば、すべての生物が生物界のなかに位置をもっていることになる。この意味での価値を⑤自然史的価値と呼びたい。

人間はその頭脳の力により、他の動物にない発展をとげた。対自然の関係において、科学と技術は野生生物（自然）の資源的な利用、すなわちものの生産において大きな力となった。それは資源の利用・生産に関する自然法則を、実によく学びこれを活用したからである。しかし、野生生物（自然）のもつ法則性は資源利用・生産ばかりではない。

今日、いろいろな意味での安全性が求められているが、安全性は今日まで十分学んでこなかった法則性の一つである。

人間はこれからもっと多面的な野生生物（自然）の法則を学ばなければならない。その法則は野生生物を筆頭に自然物に潜んでいる。野生生物や自然物から新しい法則を学ぶためには、人間の手がなるべくかかっていない野生生物や自然物が残っていないければならぬ。野生生物は人間の将来の存続のためにこそ、今日のいたずらな乱用から保護されなければならない。

注 ※ 平衡 … 一方に片寄らないで安定を保っていること。

※ 乱獲 … 動物などをむやみにとること。

※ 利潤 … 利益。もうけ。

※ 対峙 … 向かい合っていること。

※ 範疇 … 基本的な枠組み。範囲。

問一 本文中の

 に当てはまる言葉として適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア つまり イ しかし ウ たとえば エ さらに

問二 ——— 線部①「自然の法則のもとでは、食われる側の動物も食う側の動物も共存しなければならなかったのである」とありますが、これはなぜですか。その理由を述べた部分を本文中から二十六字でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問三 ——— 線部②「そして生物の絶滅を招いていく」とありますが、日本で「トキ」が「絶滅」したのはなぜですか。その理由を三つ、それぞれ二十五字以内で答えなさい。

問四

~~~~線部「人類はその発生以来、みずからの生存のために周囲の動植物を利用してきた」とありますが、「人間」と「動植物」の関係の説明として**適当でないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人類は当初、森林の樹木の葉・花・果実を主食としていたが、進化とともに肉食に傾いていった。
- イ 人類の発生当時の生活は安全な平野で行われ、身の回りにある豊富な食べ物を自由に食していた。
- ウ 人類は動植物を主に食料として利用していたが、それ以外にも生活の中で様々なことに用いていた。
- エ 人類が農業を獲得し農地を拡大していくことで、食料の供給も安定し人口の増大をもたらした。
- オ 人類による野生動物の生息地を破壊する行為は、動物の生存を圧迫し彼らを絶滅させることになった。

問五

——線部③「人間にとっての野生生物の価値」とありますが、これについての筆者の考えを述べた次の文の《 》に、それぞれ本文中からぬき出した指定の字数の語を入れなさい。

現在、人間は野生生物には《Ⅰ 五字》《Ⅱ 五字》がある。

問六

——線部④「相反する事実」とありますが、この内容についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人間にとって害がある動物が、ほかの動物には必要とされていること。
- イ 害があると思いきんでいた動物が、実は無害であったということ。
- ウ 人間にとって害がある動物が、人間の役にも立っているということ。
- エ 害がある動物は、どのようにしても人間に害をもたらすということ。
- オ 人間に害をもたらす動物も、大切にしなければならないということ。

問七

——線部⑤「自然史的価値」に対する筆者の考えを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 多くの生物は食料になったり薬になったりと、何らかの形で人間の役に立っているので、人間との歴史のなかで価値が生まれてきたということ。
- イ 生物はすべて食物連鎖のなかにおいて食う・食われる関係であり、進化によってその関係がなくなってしまうと、価値がなくなってしまうということ。
- ウ 不快動物であったとしても生物は自然のなかで現在も進化を続けているのであり、進化し続けるかぎり、すべての生物に価値があるということ。

エ 生物は一種だけで生きているのではなく、食物連鎖などの生物どうしの関係性のなかで進化してきているのであり、その関係があるからこそ価値があるということ。

オ 様々な野生生物を観察することは人間にとって進化の過程を知ることができるが、鑑賞などに利用される生物の場合にはその価値がないということ。

問八 本文の内容として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間は野生生物を食べられるか食べられないかという点だけで役に立つかを判断しているので、食料以外の点でも野生生物の価値を考えていかななくてはならない。

イ 人間は野生生物に大きな影響<sup>きやう</sup>を与えてきたが、野生生物の行動が人間に影響<sup>あへ</sup>を与えることはほとんどないので、野生生物に価値はないと考えてきた。

ウ 人間が野生生物や自然物を残していくことで、様々な角度から野生生物の法則を学ぶことができ、それが人間の将来の存続につながっていく。

エ 人間は他の動物には見られない高いレベルの頭脳を使って野生生物の利用や安全性についてよく学び、人間社会や自然世界を発展させてきた。

オ 人間が多種多様な活動を行ってきたために生物が絶滅してしまったので、人間はこれ以上の発展を望まずに野生生物を利用することをやめなければならない。

【三】 次の文章は、草野たきの小説『リボン』の一節です。主人公の亜樹は、「ニューヨークでデザインの勉強をしたい」と言っ  
て家出をした姉（いつみ）を説得するために、母（光枝<sup>みつえ</sup>）と一緒に<sup>しよ</sup>おば（千秋<sup>ちあき</sup>）の家にやってきました。これに続く次の文  
章を読んで、後の問いに答えなさい。

「あのさあ、光枝ちゃんだって、昔、デザイナーになりたいっていったよねえ」  
みんなが、ポカンとして千秋ちゃんに注目した。

それは、初めてきく話だった。

「でも、お母ちゃんに反対されて、あつさりあきらめてたよねえ」

亜樹は、孫の自分やお姉ちゃんにもきびしい、こわいほうのおばあちゃんの顔を思いうかべた。千秋ちゃんなんて自分の母親な  
のに、もう何年も会っていない。おばあちゃんは、千秋ちゃんが結婚<sup>こん</sup>もしないで気ままに生きてることを怒<sup>おこ</sup>っているし、千秋ち  
ゃんはイラストを描<sup>か</sup>いてることを「仕事」として認めてくれないおばあちゃんに腹を立てている。ふたりの関係は①平行線のまま、  
このままずっとよくなりそうもない。

「光枝ちゃんは、いつもや亜樹にも、やりたいことをあきらめさせたいのお？」

千秋ちゃんのいい方はすごくいじわるな感じだった。

「光枝ちゃんも、<sup>②</sup>お母ちゃんと同じことするんだあ」

好きなことを仕事にしている千秋ちゃんは、とうぜん、お姉ちゃんの味方だった。

「っていうか、<sup>③</sup>そもそも光枝ちゃんは、どうしてかたんにデザイナーになるのあきらめたのお？」

だけど、千秋ちゃんはお姉ちゃんのために、口だしをしているわけじゃなさそうだった。

「本当になりたかったら、お母ちゃんなんか放<sup>はな</sup>つて、わたしみたいに家出して、バイトしながら夢を叶<sup>かな</sup>えることだってできたわけ

じゃん？」

いじわるの a が、いつのまにかお母さんの過去に移っている。

「夢をかんたんにあきらめた光枝ちゃんに、いつみの夢をじやます権利なんかないと思うよ。いくら、母親でもね」

こんなふう④にお母さんにケンカを売る千秋ちゃんを、亜樹は初めて見た。

だって、千秋ちゃんとお母さんはずっと、なかよし姉妹だと思っていた。わざわざ近所のマンションに住んで、家にだって気軽に遊びにくるし、なんだかんだいってもめいっ子である亜樹たちをかわいがってくれている。

亜樹はそんなふたりを見て、姉妹はなかよしなら最強だなと思っていたのだ。いつか、自分もお姉ちゃんとそんなふうになれたらいいのにと、憧<sup>あこが</sup>れるくらいに。

だけど今、千秋ちゃんはお母さんを責めている。夢をあきらめたことと、今まさにお姉ちゃんの夢をあきらめさせようとしているお母さんに、怒<sup>いか</sup>りをぶつけている。

「デザイナーをあきらめたのは、お母ちゃんに反対されたからじゃないわ」

そんな千秋ちゃんに、お母さんはどうぜんヒステリックに反論すると思っていた。

「千秋みたいに、お母ちゃんに反抗<sup>こた</sup>してまで、自分の夢を追いたいって思わなかっただけよ」  
だからお母さんのしずかな口調は意外だった。

「わたしはお母ちゃんのことを好きだったから」

それはひらきなおつてというより、自分の選択<sup>たく</sup>に自信があるかのような口ぶりだった。

「お母ちゃんをかなしませるようなことはしたくなかったの」

お母さんはきつぱりいいのけた。

「わたしはあくまで大事なほうをえらんだだけよ」

「それが、おかしいっていうの！」

そこで千秋ちゃんが大声をだした。

「なんでお母ちゃんをとるわけ？ 自分の人生でしょ？  
⑤ 自分の人生とお母ちゃんをてんびんにかけること自体まちがってるの！」

興奮して、声が裏返っている。

「なんでそのおかしいことに気がつかないの？ 自分の人生をお母ちゃんにささげるなんて、絶対変だよ！」  
いつもふざけてばかりの千秋ちゃんが、こんなふうに怒りくるう姿を見るのも、初めてだった。

「変でもいいのよ！」

そのせいか、冷静だったお母さんも大声でいい返した。

「まちがってもいいの！ わたしはお母ちゃんにきらわれたくなかったの！ 好きでいてもらいたかったの！ わたしにとってはそれがなにより大事だったのよ！ 末っ子でわがままに育てられたあなたに、わたしの気持ちなんてわからないわ！」

お母さんはそうどなりちらすと、怒った顔のまま千秋ちゃんから顔をそらした。千秋ちゃんも不満そうな顔でお母さんから目をそらしている。

そうして、しばらく気まずい沈黙ちんもくが流れた。だれもなにもいおうとしない。亜樹もうつつむいて、ただじっとだれかがうごきだすのを待った。

「いくよ」

気がつくと、お姉ちゃんが亜樹の前に立っていた。おどろいてお姉ちゃんを見あげると「いいから」といって、腕うでをつかんでくる。そして亜樹はそのままお姉ちゃんにひきずられるようにして、千秋ちゃんの部屋をでた。

マンションをでると外は雪がふるんじゃないかと思うくらいに寒かった。お姉ちゃんはコートも着てない。

「お姉ちゃん、だいじょうぶ？ マフラー貸そうか？」

亜樹の言葉にお姉ちゃんはだまって首を横にふった。そのかわりみたいに急に立ちどまると、お姉ちゃんの腕をつかんでいた手を放した。

「あんた、お母さんにきらわれてるって思ったことある？」

一緒になって立ちどまった亜樹は、ちよつと考えてから、首を横にふった。

しかれたたり、八つ当たりされたり、嫌味をいわれたりしたことはいくらでもある。むちゃくちゃなことをいわれて、お母さんってほんとわけわかんないと思うことも多い。だけど、お母さんにきらわれてると思ったことはなかったから。

「わたしもないよ」

お姉ちゃんは腕ぐみをして、大きく息を吐いた。

「どんなにケンカしても、きらわれるとか、見捨てられるっていう心配はしたことがない。こうして家出しても、そういう心配だけはしたことない」

少しかなしそうな表情で、お姉ちゃんはそういいきった。

「⑥安心してお母さんに反抗できるって、もしかしてもすごく幸せなことかもしれないね」

亜樹はだまってうなずいたけれど、本当はよくわからなかった。

デザイナーになることをあきらめた理由がおばちゃんにきらわれたくないからだなんて、亜樹にはどうにも理解できなかった。

お姉ちゃんのいうとおり、そんなお母さんを理解できないくらい、自分は幸せなのかもしれないと思った。

「だから、わたしはあきらめないよ」

その強い口調に、亜樹は考えこんで、いつのまにかうつむき加減になっていた顔を起こした。

「わたしはニューヨークにいくよ。生きたい場所ややりたいことが、やっと見つかったんだもの。わたしは絶対にあきらめない」

お姉ちゃんの宣言に、亜樹はうなずきながらも、ずっときいてみたかったことをたずねた。

「それって、どうやって見つけたの？」

「どうやってって？」

お姉ちゃんは、家のほうへと歩きだしていた。

「なにをしたら、自分が将来なりたいたいものって見つかるの？」

亜樹はあわててお姉ちゃんのあとを追った。

「見つけるんじゃないよ。気づいただけだよ」

「気づく？」

亜樹はますますわからなくなった。

「本を読んだり、テレビや映画を見たり、友だちと話したりしてるときに、自分の気持ちがゆさぶられる瞬間しゆんをのがさないようにしただけ」

「じぶんのきもち……」

亜樹はゆっくりくり返した。

「そう。わたしはこういうの好きとか、興味ないとか、おもしろくないとか、みんなうなずいてるけどうなずけないとか、とにかく自分の気持ちを注意深く見てあげるの」

お姉ちゃんは亜樹のほうをふりむくことなく、ずんずん歩いていった。

「そしたら、自分に気づける。なにが好きなのか。どうしたいのか。どんなふうに生きたいのか」

それでも亜樹の疑問に、まじめにこたえてくれていた。ちゃんと、おしえてくれた。

「わたしも、いつか気づけるかなあ」



亜樹はうれしくて、思わずお姉ちゃんの腕をとった。なんだか小さいときみたいに、手をつないで並んで歩きたい気分になったから。

「それは、あんた次第だから、知らない」

その返事はいつもの **b** お姉ちゃんらしくて、亜樹をこっそり笑わせた。

「そうだね」

亜樹はうれしそうな声にならないようにいった。

そのあと、ふたりはもうなにもしやべらなかつた。だけど、お姉ちゃんは亜樹がつかんでいる腕を、もうふりはらったりしなかつた。足早のお姉ちゃんについていくために、亜樹はときどき小走りしなければならなかつたけれど、家につくまでふたりは一緒に歩いた。亜樹は半歩先を歩くお姉ちゃんの横顔をときどき見あげながら、<sup>⑦</sup> うれしい気持ちで家まで歩いた。

問一 本文中の **a**、**b** に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

**a**

オ エ ウ イ ア  
矢先 矛<sup>ほこ</sup>先 筆先 口先 宛<sup>あて</sup>先

**b**

オ エ ウ イ ア  
やさしい つれない つつましい いぶかしい あどけない

問二 ――線部①「平行線のまま」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 千秋ちゃんとおばあちゃんは、心を通じ合わず、ずっとお互い<sup>たが</sup>を理解できずにいるということ。  
イ 千秋ちゃんとおばあちゃんは、距離を置くことによってかろうじて関係を保っているということ。  
ウ 千秋ちゃんとおばあちゃんは、いつもケンカばかりしていて、とても仲が悪いということ。  
エ 千秋ちゃんとお母さんは、今回の言い合いですっかり仲がこじれてしまったということ。  
オ 千秋ちゃんとお母さんは、なかよし姉妹でありながら、性格も価値観も対照的であるということ。

問三 ――線部②「お母ちゃんと同じこと」とはどのようなことですか。説明しなさい。

問四 ――線部③「そもそも光枝ちゃんは、どうしてかたんにデザイナーになるのあきらめたの？」とありますが、「光枝」がデザイナーになるのをあきらめたのはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分には才能がなく、デザイナーとしてやっていくことは難しいと感じたから。  
イ 自分の夢を理解してくれない母親にうんざりし、反論<sup>つか</sup>することに疲れたから。  
ウ 妹の千秋がしたような、夢を叶えるために家を出る勇気はなかったから。

エ もともと、大変な苦勞をしてまでなりたいと思う職業ではなかったから。

オ 母親の言うことに素直に従うことで、自分のことを受け入れてほしかったから。

問五

——線部④「お母さんにケンカを売る千秋ちゃん」とありますが、「千秋」は「お母さん」の何に腹を立てているのですか。「〜こと」に続く形で四十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問六

——線部⑤「自分の人生とお母ちゃんをてんびんにかける」とは具体的にはどういうことですか。説明しなさい。

問七

——線部⑥「安心してお母さんに反抗できるって、もしかしてもものすごく幸せなことかもしれないね」とありますが、いつみがそう思うのはなぜだと考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たとお母さんにきらわれたとしても、自分が絶対に叶えたいと思える夢を見つけることができたから。

イ 自分のしたいことをお母さんに反対されたとしても、千秋が味方になってかばってくれるから。

ウ お母さんが表面上は自分の夢に反対していても、本当は応援してくれているということを知っているから。

エ 自分がどんな選択をしたとしても、お母さんは自分のことを見放すことはないと思えるから。

オ お母さんの反対を押し切ることで、お母さんがあきらめた夢を自分が代わりに叶えてあげられるから。

問八

——線部⑦「うれしい気持ちで家まで歩いた」とありますが、それはなぜだと考えられますか。その説明として適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア お母さんと千秋が本音でぶつかったことで、いつみの意志をお母さんにも理解してもらえだろうと期待しているから。  
イ はっきりと言葉にしなくても、自分といつみの姉妹のきずなが確かにあることを実感し、温かい気持ちになったから。  
ウ お母さんとケンカをして家出したいつみが少しも動揺ようしておらず、お母さんより優位に立っているように見えたから。  
エ 家出した姉のいつみを家に連れ戻せたことで、自分もやっといつみに追いつくことができたように感じたから。  
オ 自分もいつみのように、自分が何を好きなのかや、どんなふうに生きたいのかを見つけられそうな気がしたから。  
カ いたたまれない雰囲気ふんから自分を連れ出してくれたいつみのやさしい心遣いづかいが、妹として誇ほこらしく思えたから。

問九

本文の内容や特徴ちように関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 本文は基本的には亜樹を視点人物にして描えがかれているが、ところどころに他の登場人物の視点を取り入れることで、主人公である亜樹の思いがより鮮あざやかに表現されている。

イ 会話を多用することによってテンポよく物語が展開するとともに、登場人物の個性がありありと表現され、読者を引き込む臨場感のある文章になっている。

ウ 母親の過去や親子関係に思いをめぐらせる亜樹といつみの心情をそれぞれ丁寧ていねいに描くことで、複雑な家庭環境かんが生み出す重苦しい雰囲気をみごとに表している。

エ いつみの家出や光枝と千秋の口論など、家族の中で起こった一連のできごとが、第三者である語り手の視点を通して終始客観的につづられている。

オ 「外は雪がふるんじゃないかと思うくらいに寒かった」という、外の気温の低さを表す描写は、光枝と千秋の関係が冷えて切ってしまったことをほのめかしている。

【問題はこれで終わりです。】



【一】

|       |         |
|-------|---------|
| 問一    |         |
| ⑤ 参 拝 | ① ぎょうそう |
| ⑥ 株 式 | ② たんち   |
|       | ③ 備     |
|       | える      |
|       | ④ 枚 挙   |

|    |         |         |         |           |           |
|----|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| 問二 | ① し の ば | ② お し ま | ③ す く わ | ④ あ や ぶ ま | ⑤ う か が わ |
|----|---------|---------|---------|-----------|-----------|

|    |                       |
|----|-----------------------|
| 問三 | F ↓ B ↓ D ↓ E ↓ C ↓ A |
|----|-----------------------|

【二】

|    |                 |
|----|-----------------|
| 問一 | A エ B イ C ウ D ア |
|----|-----------------|

|    |                       |
|----|-----------------------|
| 問二 | 食 物 に な る ー な が る か ら |
|----|-----------------------|

|         |                                         |
|---------|-----------------------------------------|
| ・       | 美 し い 羽 毛 や 食 用 の 肉 を 得 る た め に 乱 獲 さ れ |
| た か ら ° |                                         |

|    |   |  |
|----|---|--|
| 問三 | ・ |  |
| し  | 土 |  |
| た  | 地 |  |
| か  | の |  |
| ら  | 開 |  |
| °  | 発 |  |
|    | 熱 |  |
|    | が |  |
|    | 高 |  |
|    | ま |  |
|    | り |  |
|    | 、 |  |
|    | ト |  |
|    | キ |  |
|    | の |  |
|    | 生 |  |
|    | 息 |  |
|    | 地 |  |
|    | が |  |
|    | 減 |  |
|    | 少 |  |

|         |                                         |
|---------|-----------------------------------------|
| ・       | 農 薬 が ト キ の 食 料 で あ る 水 生 動 物 を 激 減 さ せ |
| た か ら ° |                                         |

|    |   |                             |
|----|---|-----------------------------|
| 問四 | イ | 問五 I 資 源 的 価 値 II 教 育 的 価 値 |
|----|---|-----------------------------|

|    |   |      |      |
|----|---|------|------|
| 問六 | ウ | 問七 エ | 問八 ウ |
|----|---|------|------|

【三】

|    |         |      |
|----|---------|------|
| 問一 | a エ b エ | 問二 ア |
|----|---------|------|

|    |                |
|----|----------------|
| 問三 | 娘の夢をあきらめさせること。 |
|----|----------------|

|    |   |                              |
|----|---|------------------------------|
| 問四 | オ | 問五 夢 を あ き ら ー と し て い る こと。 |
|----|---|------------------------------|

|    |                                                        |
|----|--------------------------------------------------------|
| 問六 | 自分の意志を貫いて自分の人生を決めることと、母親の意向を尊重することの、<br>どちらが重要かを比べること。 |
|----|--------------------------------------------------------|

|    |   |        |      |
|----|---|--------|------|
| 問七 | エ | 問八 イ オ | 問九 イ |
|----|---|--------|------|

二〇二〇年度

和歌山信愛中学校

入学試験 A日程（午後）

# 作文（五〇分）

受験上の注意

- 一 問題用紙の他に、解答用紙、下書き用紙があります。  
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙と  
下書き用紙を開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

|  |
|--|
|  |
|--|



問 次の文章を読んで、あなたの考えたことを六百字以内で述べなさい。

幸福を求め考えている時に、「自分は誰か<sup>だれ</sup>かを幸福にしているのだろうか？」と考えたことはありますか？

幸福をもらうだけの関係では、あげるだけの方は疲<sup>つか</sup>れてしまいます。

あなたは「何か」を誰かにあげていますか？

「何か」は、相手を幸せにするものなら、なんでもいいのです。微笑<sup>ほほえ</sup>みでも、楽しい話でも、料理でも、ナイスなアドバイスでも、荷物を持ってあげることでも、相手のすべった話にちゃんと笑ってあげることでも、感謝の言葉でも、話題の本の話でも、本当になんでもいいのです。

僕はそれを「おみやげ」と呼んでいます。おみやげは、いつも、一方通行だと人間関係は壊<sup>こわ</sup>れてしまうのです。

Aさんは、いつもBさんからさまざまな「おみやげ」をもらっている。でも、AさんがBさんに「おみやげ」を渡<sup>わた</sup>すことはない——そんな関係だとBさんはやがて、Aさんと話したり会ったりすることを嫌<sup>いや</sup>がるようになるでしょう。

たとえば、ガーデンングを趣味<sup>しゆ</sup>とする女性は、近所の人達<sup>たち</sup>に咲き誇<sup>ほこ</sup>る花々という「おみやげ」を渡しているのです。彼女が幸せを深く味わえるのは、このことが大きく関係していると僕は思っています。

花を見て嬉<sup>うれ</sup>しそうに微笑む人をちらりと見るだけでも、彼女は幸福になるのです。それは「見せびらかしたい」「自慢<sup>まん</sup>したい」という感覚ではありません。自分が「おみやげ」を渡し、それを喜んでもらうという「おみやげ」を受けとることが、彼女の幸福をさらに強めるのです。

あなたが行き詰<sup>づ</sup>まり、幸福が分からず、幸せを感じないとしたら、「自分は誰かに『おみやげ』をちゃんと渡しているか？」と自問してみてください。

焦<sup>あせ</sup>り、自分の都合だけを考え、自分の聞きたいことだけを聞き、ただ情報や知識、アドバイスをもらっているだけになっ  
ていませんか？

「おみやげ」とは、あげたりもらったりするものです。

一方的に渡し続ける関係は、大人同士の関係ではなく、大人と幼い子供の関係です。

あなたが人生を楽しみ、「おみやげ」を渡し、もらう関係を作ることとは、あなたが幸せになることと深い関係があるのです。

二〇二〇年度

和歌山信愛中学校

入学試験 C日程

# 作文 (五〇分)

受験上の注意

- 一 問題用紙の他に、解答用紙、下書き用紙があります。  
開始のチャイムが鳴ったら、確認して始めなさい。
- 二 受験番号は、すべての用紙に書きなさい。
- 三 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。
- 四 終了のチャイムが鳴ったら、問題冊子の上に、解答用紙と下書き用紙を開いたまま裏返して置きなさい。

受験番号

|  |
|--|
|  |
|--|

問 次の文章を読んで、あなたの考えたことを六百字以内で述べなさい。

学生時代のある日、英語の先生がこのような言葉を述べました。

「私は、自分に能力があるかどうか知らなかった。自分が良い仕事ができるかいつも不安だった。友人たちが自分より良い仕事をしているように見え、<sup>あせ</sup>焦りを感じて、今の仕事をやめようと思ったことも何度もある。

このようなときに、自分の先生から『人生に夢を持ちなさい。持ち続けているとそれが現実になるのです』といわれた。

苦難に直面したときにいつも『夢は現実になる』と口ずさみ、仕事に打ち込<sup>こ</sup>んできた。その結果、現在の自分があるのだ。もしこの言葉を知らなかったら、どのような人生を歩んでいたかわからない。そのことを考えると<sup>おそ</sup>恐ろしくなるくらいだ。

君たちも、こうなりたいという夢を持ちなさい。かならずそれは実現する。いや、この言葉が実現させてくれるのだ」

六十年近くたった今も、この言葉を思い出します。そして人生経験を積んでくるほど、この言葉の真実が心を打つのです。

夢を持つこと、将来このようになりたいと思うことを心に描<sup>えが</sup>くことは非常に大事です。夢は目標ですから、夢のない生き方は、いかに努力してもどこにもあなたを運んでくれません。

これは登山にたとえられます。山頂に向かうという気持ちや目的があれば、それに対しての努力、歩みはあなたをもっと高いところに連れてゆきます。しかし動くということが目的で、山頂に行こうという目的がなければ、同じ高さのところをぐるぐる回っているかもしれません。

目的意識、夢があなたをその方向に動かすのです。

夢は運転手の役割をしています。これがなければ方向が決まらないのです。

このように夢を持つことは大事ですが、それに向かって努力する、つまりエンジンを回し続けなければ進みません。

もしいろいろ悩<sup>なや</sup>んだり、心配したり、自己不信に陥<sup>おち</sup>ったりすれば、やろうとする気持ち、エンジン回そうという気持ちも弱まるのです。

このようなときに、エンジンを回し続けることを可能にするのが「夢は現実になる」という言葉なのです。

受験番号

|  |
|--|
|  |
|--|

[illegible]